こころ ふれあい つながって

25 人権学習シリーズ

「幸福の尺度、暮らしやすさの尺度」

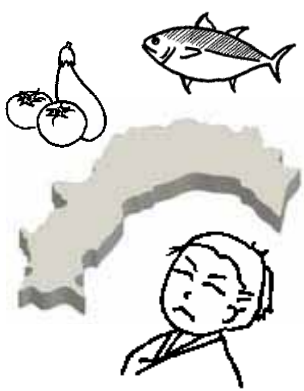
広報「なんこく」の背表紙に掲載されている外国人の方のコラムを毎号楽しみに見ています。そこから日本と海外の様子を比較すると、日本は物やサービスが充実しており、なおかつ治安の良さや医療の充実、衛生環境・教育環境の整備も進んでいて、我々はそれを当たり前のように享受しています。

一方で２０１１年、某大学から47都道府県別の幸福度ランキングというものが発表されました。それによると高知県は下から2番目の46位という結果でした。学校や病院、公共交通といった指標により、ランキングを決めているようです。私自身、高知県で生活をしていて特に暮らしにくいと感じていませんし、何より幸福でないとも思っていないので、とてもびっくりしたところです。

調査などで「暮らしやすいですか」と尋ねられれば、「車がないと生活しづらい」「障害者や高齢者が生活しやすい街づくりになっていない」「雇用の場が少ない。収入が少ない」といったことを答えがちです。今すでにあるものは当たり前で、ないものを求めてしまうのは仕方がないことかもしれません。よりよい生活を望んだことで、今日の世の中をつくってきたことも事実です。

人によって幸福や暮らしやすさを感じる尺度は違い、各都道府県それぞれに特徴があります。我々の暮らしている高知県は、47都道府県別の幸福度ランキングで決められた順位どおりでは決してないと思います。

何をもって幸せと感じるかは人それぞれ違っており、個人が幸せと感じていればそれはそれでいいのではないでしょうか。住めば都という言葉にもあるとおり、温暖な気候で自然とすぐに触れ合えて、食べ物も新鮮でおいしい今の高知県が私は好きです。



＊このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会
（☎８８０・６５６９）まで